

藻類

(現状の解明度)

藻類は、海藻などの大型種を除いては、気候帯や植生といったマクロな地域的要因より、生育地のミクロな環境要因に影響を受ける。このため、4万種とも5万種ともいわれる藻類のフロラを、地域性の観点から解明する意義はあまりない。広島市における藻類の現状も、生育環境の現状に直接かかわっている。その意味では、沿岸部における汽水域の消滅をはじめとした環境の多様性の減少が、藻類の多様性の減少に直接結びついている可能性が示唆される。

なお、広島市域で藻類の産地情報が記録された文献は、1997年にまとめられた「広島県植物誌」で取り上げられている49文献のうち9文献である。これらの調査内容は、河川付着藻、湖沼のプランクトン、流下珪藻、気生藻類など多岐にわたっているが、情報としてはきわめて少ない状況で、シャジクモ類については1文献しかない。また、今回の調査を含めても2つの情報しかないことになる。

(選定候補種の抽出過程)

藻類全般において、既存文献と現地調査に基づいて、本調査での選定基準による抽出を行うことは多大な努力を要する。また、「広島県版レッドデータブック」と「広島市稀少生物調査報告」では、藻類は対象とされていない。そこで、今回の調査では、環境庁レッドリスト種のうち絶滅危惧^く類にランクされているシャジクモ類を対象とした。シャジクモ類は肉眼的サイズであり、水田やため池といった人の生活にかかわる水域に生育していることから、今回の調査に最もふさわしい分類群であると考えられる。

シャジクモ類についての広島市域での文献情報は、1954年に今堀宏三博士がまとめたものが唯一であり、6種7産地が記録されているのみである。このため、現地調査はシャジクモ類全種を対象とし、確認された種を選定種として取り上げる方針で調査を行った。また、選定種の選定区分は、環境庁レッドリスト種を「絶滅・絶滅のおそれのあるもの」として取り上げ、その選定要件は、調査で得られた分布、生育特性を考慮して判断した。

(現地調査結果)

現地調査は、広島市域全体が網羅できるよう、1/25,000地形図の1/4区画について1産地の情報が得られることを目安に行い、8日間の現地調査で水田、溝、ため池などの23産地から26サンプルを収集した。サンプルは顕微鏡観察により同定した。不明なものは培養により形成させた卵胞子膜の詳細な観察などにより同定した。

その結果、シャジクモが水田や溝を主体に17産地で確認され、きわめて一般的にみられる種であることが判明した。このほか、水田ではヒメフラスコモが2産地、ジュズフラスコモが7産地、ホソバフラスコモが1産地、ニッポンフラスコモが4産地、ため池ではキヌフラスコモが1産地で得られた。

(選定結果)

4種を選定した。内訳は、広島市の絶滅のおそれのあるもの4種(軽度懸念1種、情報不足3種)である。

環境庁レッドリスト種のシャジクモは、水田にごく一般的にみられることから軽度懸念の選定要件で扱った。同じく環境庁レッドリスト種のオオシャジクモ、ヒメフラスコモ、キヌフラスコモについては確認された産地は少ないものの生育環境を網羅的に調査しているわけではないので、情報不足とした。

なお、学名は環境庁レッドリストに従った。

藻類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

シャジクモ

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

オオシャジクモ

ヒメフラスコモ

キヌフラスコモ

藻類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

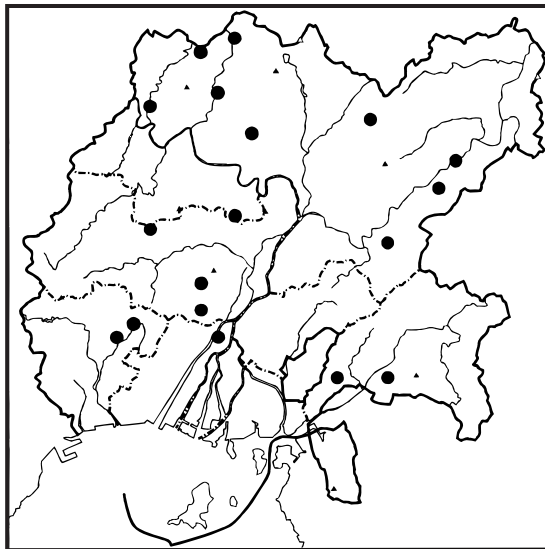
環境庁・県 R D B 種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

■ シャジクモ（シャジクモ科）

Chara braunii

淡水域や河口付近の汽水域にみられる。
日本各地に分布。藻体は 40cm くらいまで
になり，主軸は 0.3~ 1mm。

市域に広く分布。生育地は多いが近年の
変化については情報不足で不明である。水
田や溝ではきわめて一般的にみられ，個体
数も多い。



藻類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

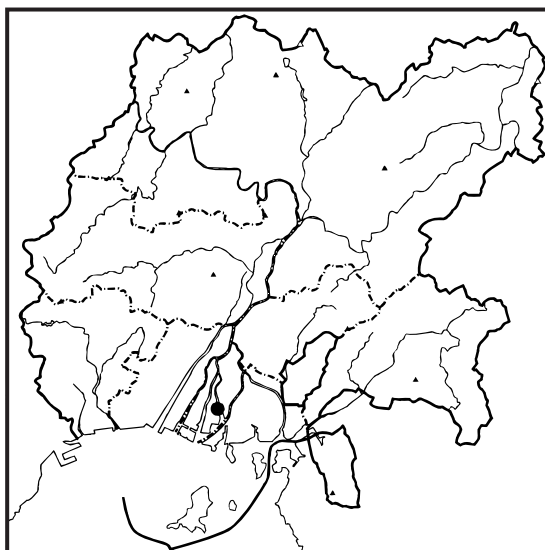
環境庁・県 R D B 種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

■ オオシャジクモ（シャジクモ科）

Chara corallina var. *corallina*

池，湖沼に見られる。青森以南の各地に
分布。藻体は 50cm くらいになり，主軸は
1mm 程度と太い。

中区千田町の旧広島大学植物園で記録さ
れているが，現在は生育地が消失している。
この記録も自然分布かどうかは不明である。
本種の本来の生育特性は，湖で大規模なシャ
ジクモ帯を形成するものである。



藻類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

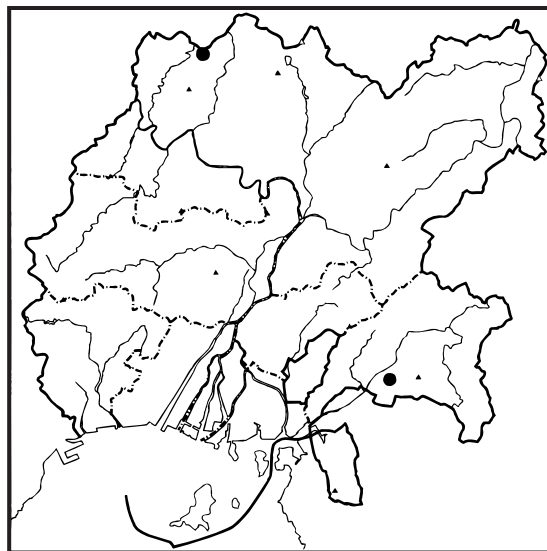
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

■ヒメフラスコモ（シャジクモ科）

Nitella flexilis var. *flexilis*

池，湖沼，水田などにみられ，低温の水に適応した種である。北海道，本州，四国に分布。藻体は30cmくらいで時に1mに達する。

安佐北区^{おがうち}小河内，安芸区中野東の水田で確認した。いずれもシャジクモなどに混在しており，各地の湖で報告されているような純群落は形成していない。



藻類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

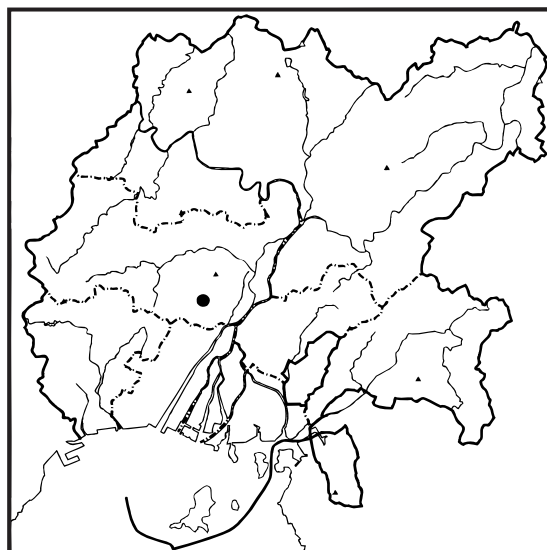
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

■キヌフラスコモ（シャジクモ科）

Nitella mucronata var. *gracilens*

本州中部の山岳湖沼にみられる。藻体は比較的繊細で，主軸の太さは0.4mm以下。分類学的に検討の余地がある。

安佐南区祇園町の池岸の底に単独に群生しており，近くにはミズオオバコ，ホッスモ，ヒロハトリゲモなどの水草も生育している。ため池などでの分布調査の必要がある。



菌類

(現状の解明度)

取り扱う菌類は、菌類という大きな分類群のうち、胞子を形成する器官である子実体が肉眼で観察できる大きさのものに限定した。肉眼で見える子実体を、通称「キノコ」と称して、カビなどの他の菌類と区別しているが、明確な境界はない。

菌類のフロラ調査の歴史はきわめて浅く、データが少ない。

広島市の菌類フロラに関する文献は、広島女学院大学が1986年から2年間牛田山で調査し1988年にまとめた「牛田山の自然」と、広島県緑化センターが1983年から16年間東区福田町にある同センターで行ったきのこ観察会の採集リストを2000年にまとめた「広島県緑化センターのきのこ」の2件である。そのほかには、広島きのこ同好会が市内各地で行った観察会のデータがあるのみである。これらは、限られた場所で行われた調査記録であり、広島市全域を網羅したものではない。

(選定候補種の抽出過程)

菌類の場合、キノコ(子実体)と称される部分は、植物でいえば花に相当するもので、植物の葉・茎・根にあたる菌類の本体は、地中、枯れ木、腐植質の中など人目のつかない所に、一本一本は肉眼では見えない菌糸の状態^きで生存しているため、菌類の存在を確認できるのは、キノコが発生している一週間前後の短い期間である。なかには、サルノコシカケのなかまのように数か月から多年生のものもある。しかも、菌糸が存在すれば、毎年キノコが発生するのかといえそうではなく、発生に適した気象条件と栄養条件を与えられた時のみ発生する。数年に一度発生したり、数十年ぶりに発生したという例もある。

このような生態をもつ菌類なので、絶滅の可能性があるかもしれないが、その可能性を判断するのは非常に難しい。

以上のことをふまえて、候補種の抽出を行った。過去の調査に発生^きの記録はあるが最近の調査では記録されない種、発生^きのまれな種、環境庁レッドリスト種、1988年にまとめられた「広島市稀少生物調査報告」にあげられた種から、候補種として約30種を抽出し、それらに重点を置いて調査を進めた。

(現地調査結果)

私有地、私有林での調査は困難であった。とくに、秋のキノコが多くみられるマツタケ発生時期におけるアカマツ林の調査はほとんどできなかったため、公有地、公有林、公園などでの調査が主となった。1998年から2年間、調査地を7カ所に絞り、計32回の調査を行った。

その結果、候補種として抽出したものうち、ドングリキンカクキン、ホシミノヌメリガサ(仮称)、トガリツキミタケ、アケボノタケ、ナナイロヌメリタケ、キヒダイッポンシメジ、ソライロタケ、ウツロイイグチ、ヒメウグイスイグチ、タマノリイ

グチ，オオヤシャイグチ，アヤメイグチ，アシナガイグチ，コウタケ，コウボウフデ，ツチグリカタワタケ，オニフスベ，キヌガサタケ，ウスキキヌガサタケは，発生をみなかった。

以上の今回確認できなかった菌類は，過去に発生していた場所の環境の変化の著しいものがほとんどである。山の手入れがされなかったり，広葉樹の生長などで日当たりが悪くなった所，反対に樹木が伐採されたり，アカマツの多くが枯れて樹林が明るくなりすぎた所，土地造成で発生していた場所がごっそりと消失してしまった所のものである。

カバイロコナテングタケは以前と同じ場所で1998年に1本を確認した。記録によれば金輪島での発生が日本での最初の発見である。

アキノアシナガイグチは広島市での発生が日本での最初の発見で，その後他県でも発生が確認されたが，全国的にみても発生場所が限られている。現在も最初の発見場所と同じ所に発生しているが，ここに最近作業道がつけられ以前よりは発生数が減少し，キノコも小ぶりになっている。

ツキヨタケとウスキブナノミタケについては，それぞれブナの枯れ木，ブナの実に発生するもので，発生時期に調査に行くことができなかった。

(選定結果)

23種を選定した。内訳は，広島市の絶滅のおそれのあるもの23種(絶滅危惧[△]6種，準絶滅危惧[△]16種，情報不足1種)である。

ホシミノヌメリガサ，キヒダイッポンシメジ，タマノリイグチ，アキノアシナガイグチ，キヌガサタケ，ウスキキヌガサタケの6種は，現地調査結果から絶滅危惧[△]とした。とくに，ホシミノヌメリガサは，1986年牛田山の調査の折に発見されたもので，日本での新産属・種で，発見後数年にわたって細々と発生していたが，山道の手入れがされなくなって日当たりが悪くなり環境が変化して，ここ10年程発生を見ていない。なお，日本国内でも牛田山以外に発生の記録のない熱帯性のキノコである。

過去に確認の記録があるウスキブナノミタケを含めた16種を準絶滅危惧[△]とした。

ツキヨタケは環境庁レッドリスト種であるが，過去に確認の記録がないため，情報不足とした。

(選定しなかった種とその理由)

「広島市稀少^キ生物調査報告」で選定されているもののうち，つぎの5種は以後の調査で一般種であると思われたので選定しなかった。

クモタケ，ツクツクボウシタケ，ハナサナギタケ，カゴタケ，コツブタケ

●

菌類の選定種

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧^ㇿ

ホシミノヌメリガサ(仮称)

キヒダイッポンシメジ

アキノアシナガイグチ

タマノリイグチ

キヌガサタケ

ウスキキヌガサタケ

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧^ㇿ

ドングリキンカクキン

トガリツキミタケ

アケボノタケ

ナナイロヌメリタケ

ウスキブナノミタケ

カバイロコナテングタケ

ソライロタケ

オオヤシャイグチ

アヤメイグチ

アシナガイグチ

ヒメウグイスイグチ

ウツロイイグチ

コウタケ

ツチグリカタワタケ

コウボウフデ

オニフスベ

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

ツキヨタケ

菌類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

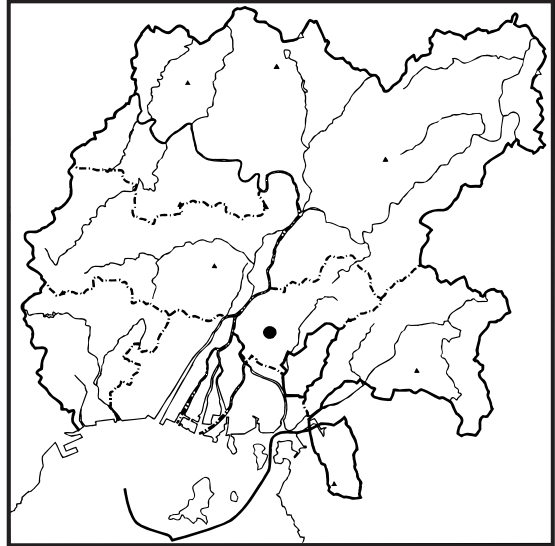
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ホシミノヌメリガサ（仮称）（ヌメリガサ科）

Hygroaster nodulisporus

分布，生態は不明。傘は径1cm くらいで，黒褐色で微細な鱗片^{りんぺん}があり，中央部は深くへこんでいる。

東区牛田新町の山道の切り通しで記録されている。1988年に発生して以降，確認されていない。発生地の周辺が宅地造成され環境が変わっている。



菌類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

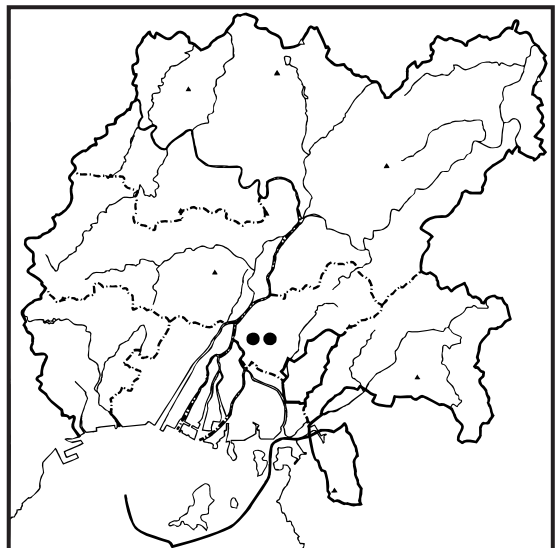
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■キヒダイッポンシメジ（イッポンシメジ科）

Rhodophyllus kansaiensis

本州（滋賀，京都，広島県）に分布。アカマツ・コナラ林などの地上に発生する。傘は灰黄～オリーブ色で，ひだは黄色のち肉色を帯びる。

東区の牛田山で記録されている。1986年に発生して以降，確認されていない。発生地の周辺が宅地造成され環境が変わっている。



菌類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

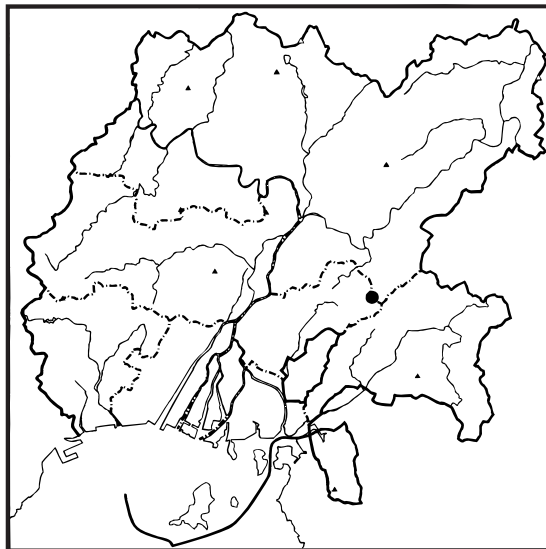
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■アキノアシナガイグチ（オニイグチ科）

Boletellus longicollis

福井，広島，佐賀，沖縄の各県に分布。
傘と柄が粘液におおわれ，柄の上部に粘性膜質のつばがある。

東区の緑化センター内で記録されている。
多い時は10～20個体の発生がみられていたが，最近は少なく1999年にはみられなかった。作業道により寄生木のシイが枯損するおそれがある。



菌類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

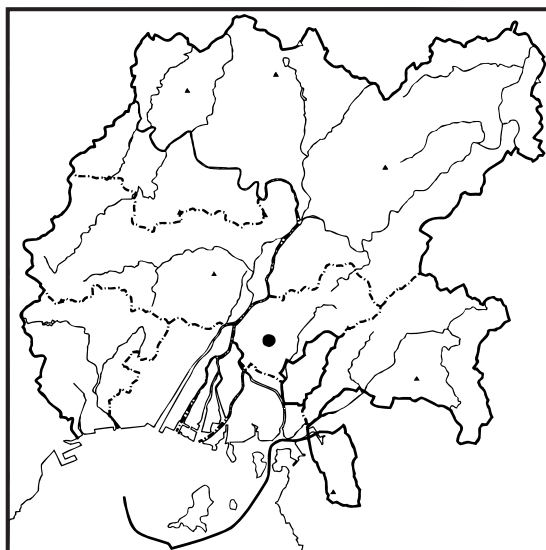
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■タマノリイグチ（イグチ科）

Xerocomus astraeicola

福島県以南の日本各地に分布。^{がけ}崖土に発生するツチグリ（キノコ）に寄生する。形態はアワタケ属のキノコだが，ツチグリの子実体から発生している。

東区の牛田山で記録されている。1986年まで発生がみられていたが，土地造成のため環境が変化し，以後発生はみられない。



菌類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

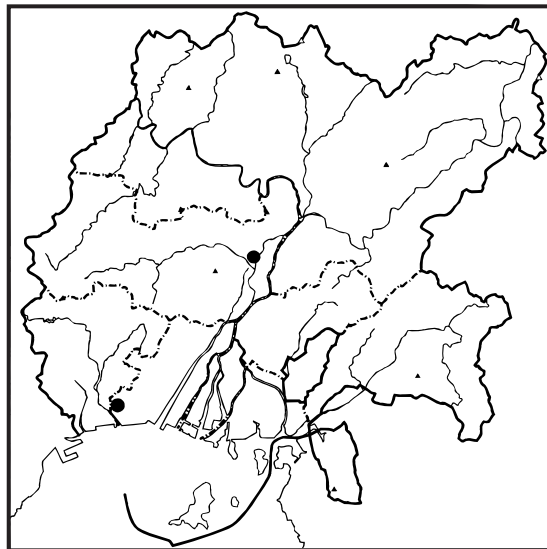
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ キヌガサタケ（スッポンタケ科）

Dictyophora indusiata

日本各地に分布。竹林内に発生する。傘から白色のマントが垂れ下がる。

安佐南区緑井のせせらぎ公園及び西区井口^{いの}2丁目の竹林で記録されている。安佐南区では1997年まで、西区では1988年までは毎年発生がみられたが、それ以降の発生はない。



菌類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

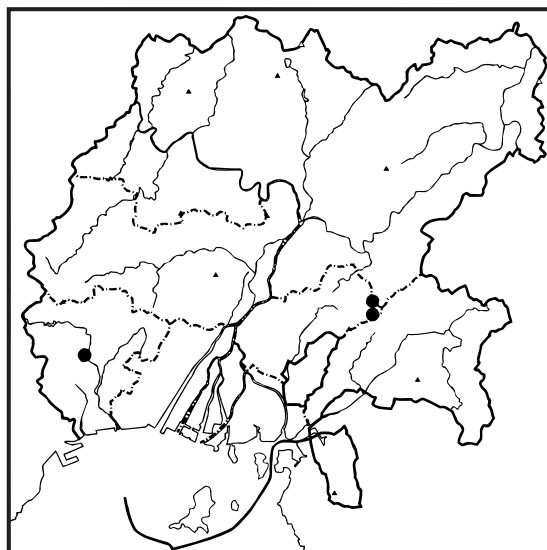
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ ウスキキヌガサタケ（スッポンタケ科）

Dictyophora indusiata f. *lutea*

本州（京都府，広島県），四国（徳島県），九州（宮崎県）に分布。傘から黄色のマントが垂れ下がる。

東区の緑化センター，佐伯区五日市町の下河内運動公園内で記録されている。1996年までは発生がみられていたが，以降は確認されていない。



菌類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

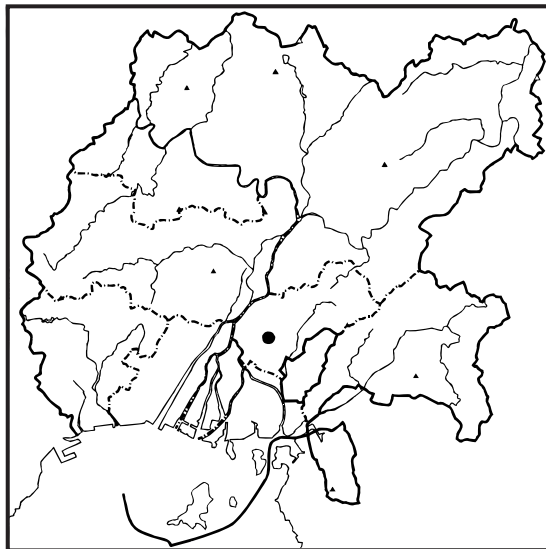
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ ドングリキンカクキン（キンカクキン科）

Ciboria batschiana

秋，地上に落ちたドングリの実（コナラ属）に発生する。傘の径3～7mm，皿形～^{わん}椀形で中央がへこむ。

東区の牛田山で記録されている。1988年までは発生がみられていたが，以後は確認されていない。



菌類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

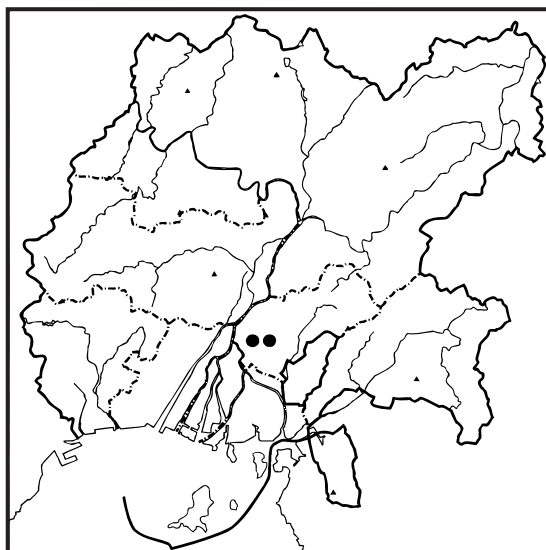
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ トガリツキミタケ（ヌメリガサ科）

Hygrocybe acutoconica f. *japonica*

日本各地に分布。傘は黄色で中央部は円^{えん}
^{すいじょう}錐状に突出する。

東区の牛田山で記録されている。1997年までは発生がみられていたが，以後は確認されていない。



菌類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

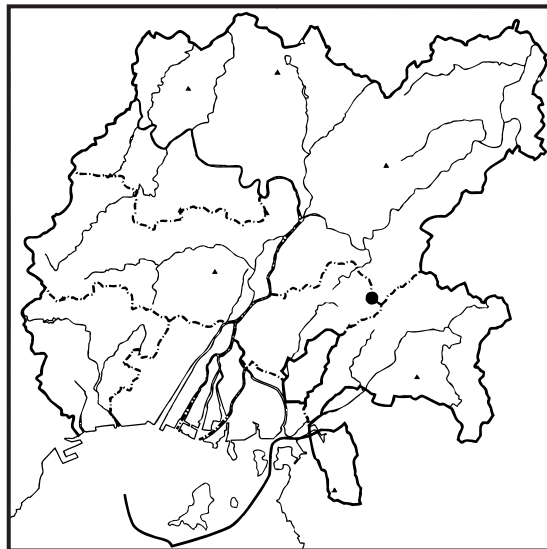
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■アケボノタケ（ヌメリガサ科）

Hygrocybe calyptraeformis

日本各地に分布。全体が淡いバラ～ライラック色の美しい種類。傘は径3～10cm。

東区の緑化センターで記録されている。1997年までは発生がみられていたが、以後は確認されていない。



菌類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

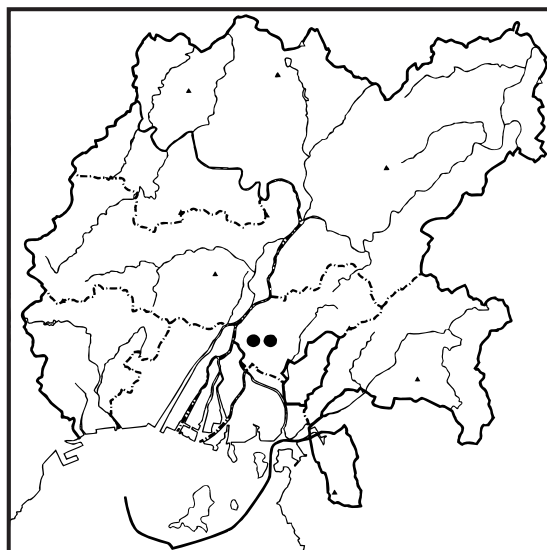
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ナナイロヌメリタケ（ヌメリガサ科）

Hygrocybe laeta

日本各地に分布。林内、竹林内、草地、ミズゴケ群落上などに発生する。傘と柄は著しい粘膜におおわれる。傘は2～3cm。

東区の牛田山で記録されている。1986年に発生を確認して以後、発生はみられていない。



菌類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

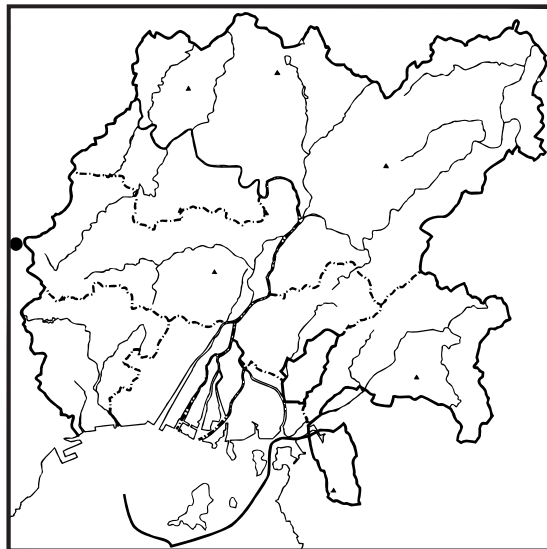
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ウスキブナノミタケ（キシメジ科）

Mycena luteopallens

日本各地のブナ林下のブナの堅果から発生する。全体が淡黄色の傘の径0.5～0.7cm 小型のキノコ。

ブナがなくなれば発生はみられなくなるであろう。



菌類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

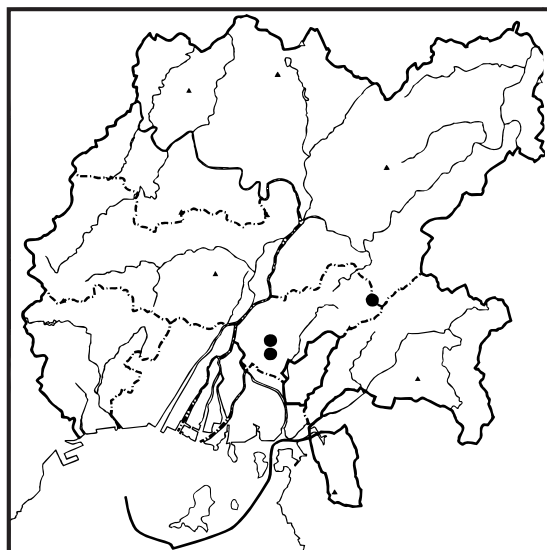
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■カバイロコナテングタケ（テングタケ科）

Amanita rufoferruginea

関東以西に分布。アカマツ，コナラなどの樹下に発生。傘及び柄は褐色を帯びた橙色の粉質物に密におおわれている。

南区の金輪島，東区の牛田山，東区の緑化センターで記録されている。牛田山と緑化センターで時々発生がみられている。



菌類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

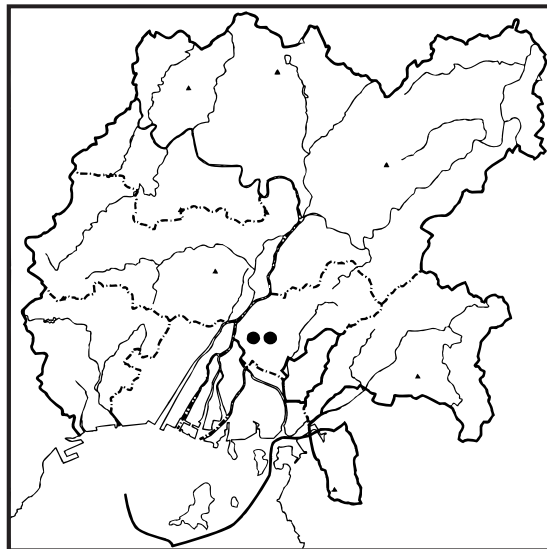
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ソライロタケ（イッボンシメジ科）

Rhodophyllus virescens

日本各地に分布。全体が空色の美しいキノコで傷ついた部分は黄変する。

1986年に発生がみられて以降、発生は確認されていない。



菌類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

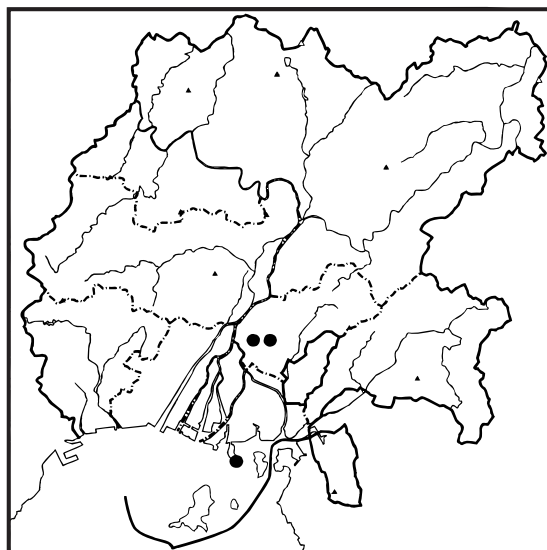
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■オオヤシャイグチ（オニイグチ科）

Austroboletus subvirens

日本各地に分布。主としてシイ・カシ林内に発生。傘の裏は管孔で白色のち紅紫褐色。柄には淡黄色の地にオリーブ緑色の網目がある。

南区の元宇品公園^{もとこうじな}、東区の牛田山で記録されているが、1996年以降、発生はみられていない。



菌類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

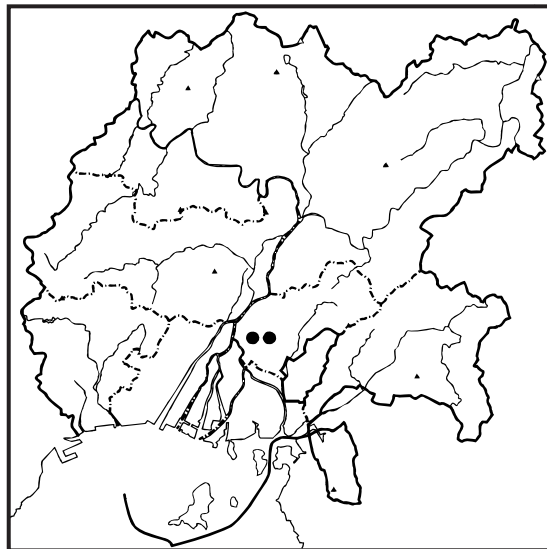
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ アヤメイグチ（オニイグチ科）

Boletellus chrysenteroides

日本各地に分布。ミズナラ林、ブナ科樹種を混生したアカマツ林の腐植上または腐朽木上に発生する。表面は乾燥し、ややピロード状、しばしば不規則にひび割れ暗褐色。

東区の牛田山で記録されているが、1986年以降確認されていない。発生地の周辺が宅地造成され環境が変わっている。



菌類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

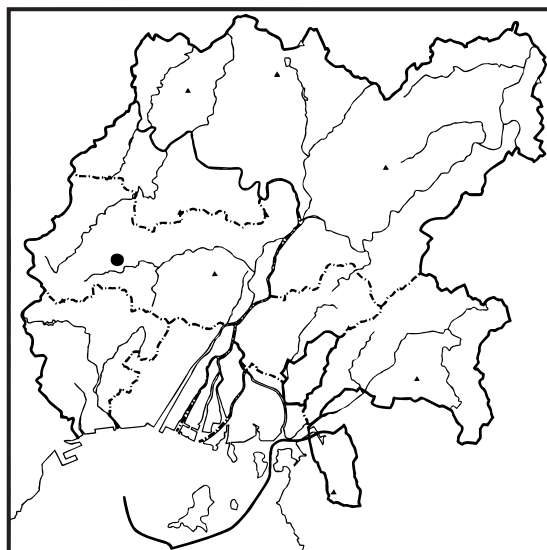
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ アシナガイグチ（オニイグチ科）

Boletellus elatus

日本各地に分布。傘の裏は管孔になっており、柄は9～23cm と長い。

安佐南区沼田町伴^{とも}で記録されている。1996年までは発生がみられていたが、以後は確認されていない。



菌類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

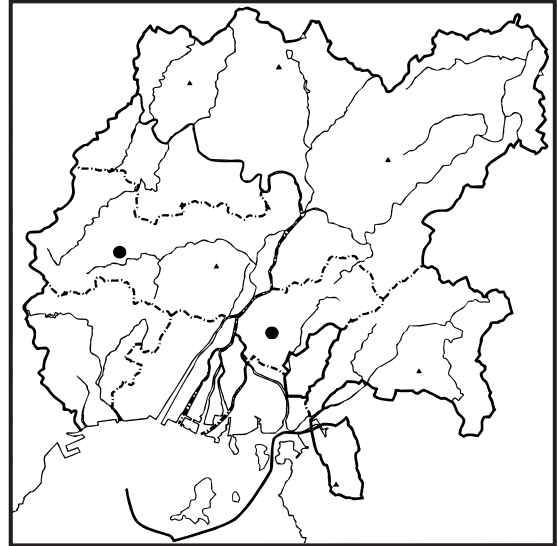
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ヒメウグイスイグチ（イグチ科）

Pulveroboletus viridis

日本各地に分布。クヌギ・コナラ林，アカマツ・コナラ林下に発生。傘は灰オリーブ色でゼラチン様の粘質物でおおわれている。

安佐南区沼田町^{とも}伴で記録されているが，1986年に確認して以後，発生はみられていない。



菌類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

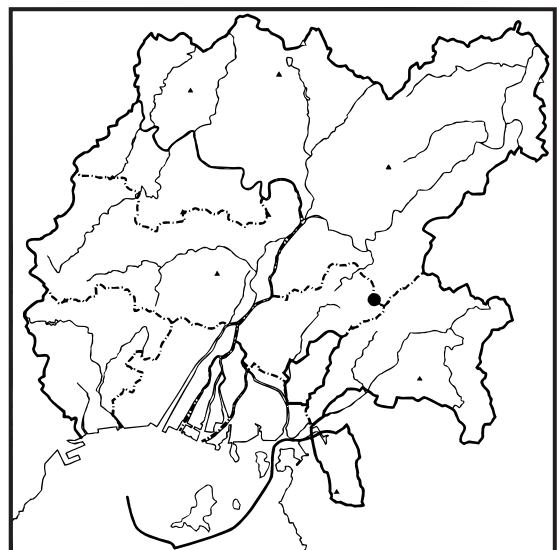
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ウツロイイグチ（イグチ科）

Xanthoconium affine

日本各地に分布。ブナ科の広葉樹下に発生。傘の裏は管孔になっており，初め白っぽく，のち褐色を帯びた^{だいたい}橙色になる。

東区の緑化センター内で記録されている。1995年までは発生がみられていたが，以後は確認されていない。



菌類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

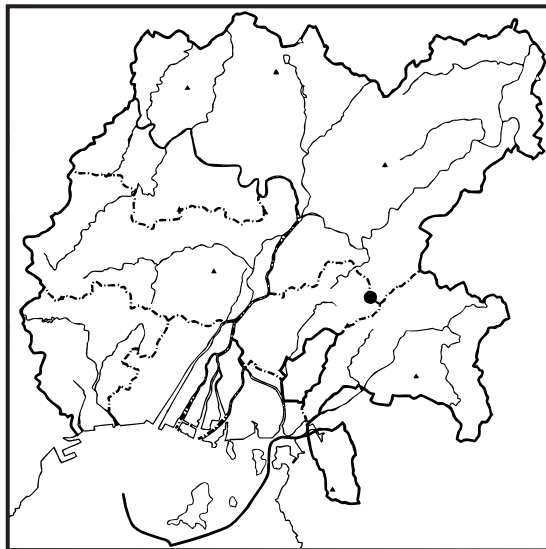
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■コウタケ（イボタケ科）

Sarcodon aspratus

日本各地に分布。アカマツを混じえた広葉樹林内に発生する。傘はアサガオ形に開いたじょうご形で、表面はそり返った厚いささくれでおおわれている。

東区の緑化センター内で記録されている。1996年までは発生がみられていたが、その後確認されていない。



菌類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

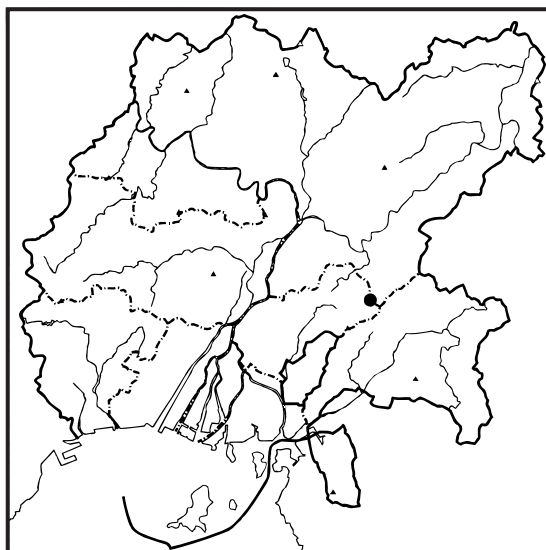
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ツチグリカタワタケ（ニセショウロ科）

Scleroderma polyrhizum

分布は不明。林地の裸土に発生する。殻皮が厚くて星形に開く。

東区の緑化センター内の一般道沿いに植えられているトチノキの樹下で記録されている。1996年までは発生がみられていたが、以後確認されていない。発生地の状況は変わっていない。



菌類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

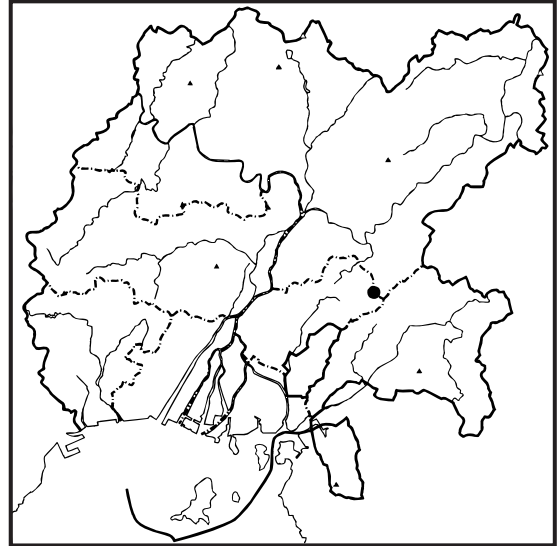
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ コウボウフデ（コウボウフデ科）

Battarrea japonica

日本各地に分布。灰青色の太まった頭部と柄を有し、地中に黄色のつぼがある。

東区の緑化センター内で記録されている。1996年までは発生がみられていたが、以後は確認されていない。



菌類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

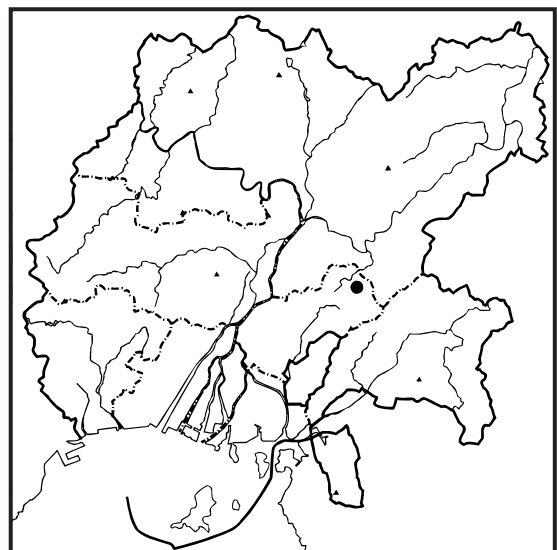
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ オニフスベ（ホコリタケ科）

Lanopila nipponica

日本各地に分布。田畑のあぜ道、庭園樹下、雑木林、竹林などに発生する。径20～50cmの白色ボール状。

東区福田町で記録されている。1994年までは発生がみられていた。



菌類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

■ ツキヨタケ（キシメジ科）

Lampteromyces japonicus

日本各地に分布。ブナ林のブナの枯れ木に発生する。柄は傘のほとんど横につき、ひだの付け根との境につば様の隆起帯がる。

ブナがあるところに生育している可能性があるが、詳細は不明である。



群落

(現状の解明度)

広島市における植生の調査研究は、全域を対象とした体系的なものは行われていない。これまでは地域を限定したものや注目される群落の個別の報告があるのみである。河川域の報告では瀬野川、古川、太田川が、山地域の報告では白木山、鎌倉寺山、武田山、熊野盆地周辺がある。峡谷関係では南原峡、宇賀峡の報告がある。また、社叢など注目される群落の研究として、馬木八幡神社などや、太田川放水路の塩生植物群落などがある。

一方、重要な個別群落をまとめたものとして、1979年に公表された環境庁の「日本の重要な植物群落」及び1996年に我が国における保護上重要な植物種及び植物群落研究委員会植物群落分科会がまとめた「植物群落レッドデータ・ブック」がある。これらでは15群落を取り上げられている。「広島市稀少生物調査報告」も重要な個別群落を選定したものである。

日本の植生を植物社会学的に体系化したものとして、「日本植生誌」全10巻がある。その中の中国地方を扱った巻でまとめられた群集のうち、広島市域から13群集が報告されている。それらは、常緑広葉高木林(イノデ・タブノキ群集、カナメモチ・コジイ群集、シラカシ群集、ツクバネガシ・シラカシ群集、シキミ・モミ群集)、常緑針葉樹林(シノブ・アカマツ群集)、河畔林(ムクノキ・エノキ群集)、河辺冠水草原(ツルヨシ群集、セリ・クサヨシ群集)、塩性湿地草原(フクド群集)、常緑針葉樹二次林(コバノミツバツツジ・アカマツ群集)、二次草原(ツボクサ・シバ群集)、水田雑草植物群落(ノミノフスマ・ケキツネノボタン群集)である。なおヤブコウジ・スダジイ群集も記録されているが、「広島県植物誌」では市域には自生のスダジイは分布していないとされているので採用しなかった。

(選定候補群落の抽出過程)

植物群落の分類方法には、優占種による方法、構成種の組み合わせによる方法などがある。本調査では構成種の組み合わせによる方法のうち、植物社会学的方法を用いた。広島市域では植生が体系的に整理されたものがない現状をふまえ、これまでに発表された植生調査資料と今回の現地調査結果をもとに群落同定を行った。群落同定は宮脇・奥田(1990)「日本植物群落図説」を参考にした。

植物群落は生物「種」ではないので、他の分類群の選定基準をそのままあてはめることはできないが、選定基準で述べられた「種」を「群落」と読み替えることにより、できるだけ対応関係を保ちながら選定群落を抽出した。また、環境庁レッドリストは特定植物群落、群落レッドデータブックと読み換えた。

植物群落は人為的な干渉を受けていない自然植生と人為的干渉を受けて成立した二次植生に分けられる。本調査では自然植生のうち成立に比較的長い時間を要するものを候補の対象とした。二次植生の中でもコバノミツバツツジ・アカマツ群集の林分は

松枯れにより近年著しく減少しており、検討の余地はあるが今回は対象としなかった。

候補となる植生に対し、植生の面積、減少の程度、群落の特性を考慮して、市域から消失の可能性の高いものを「消失のおそれのある群落」として選定した。それ以外は、「環境指標種」の選定区分で取り上げた。

(調査結果)

広島市の植生にかかわる約40文献のうち14文献より植生資料が得られた。「広島市稀少^き生物調査報告」と今回の調査で得られた植生資料を加え、合計115資料の群落同定を行った結果、21群集(群落)が確認された。

「日本植生誌」で取り上げられていない群集は、常緑広葉高木林(シモチ - シリブカガシ群集、ナナメノキ - アラカシ群集)、渓谷林(アブラチャン - ホソバタブ群集)、常緑針葉樹林(クロソヨゴ - ツガ群集)、落葉広葉樹林(イヌブナ群落)、塩性湿地草原(ハマサジ群集)、中間湿原植生(イトイヌノハナヒゲ群集、マアザミ - ヌマガヤ群集)である。

(選定結果)

確認された21群集(群落)のうち、成立に長期間を要すると考えられる自然植生の消失のおそれの度合いを検討した結果、15群集(群落)を選定した。内訳は、絶滅1群集、広島市の絶滅のおそれのあるもの14群集(絶滅危惧^く4群集、準絶滅危惧^く8群集、軽度懸念2群集)である。

絶滅としたムクノキ - エノキ群集は河川整備により消失した。

絶滅危惧^くとしたもののうち2群集は太田川放水路に成立する塩生植物群落で、面積が大幅に減少したため、今後のかく乱により消失する危険性が増大した。また、シモチ - シリブカガシ群集及びイヌブナ群落も面積が減少している。

準絶滅危惧^くとした8群集のうち、6群集は森林群落である。多くが社叢^{しゃそう}であるため開発などの危険性は少ないと考えられるが、いずれも面積が少なく現在の状態が維持されたとしても群集として維持されるかどうか注意を要する。他の2群集は湿性草原で水文環境のわずかな変化で容易に消失する可能性がある。軽度懸念とした2群集は、現在の面積は少ないが特殊な立地に成立しており、土地造成や森林施業が行われな^いと思われるので比較的存在基盤が安定していると考えられた。

(選定しなかった群落とその理由)

「広島市稀少^き生物調査報告」では個別群落を対象に重要なものを選定している。今回はそれらを群集同定し、群集別に取り上げた。重要種の自生地として取り上げられた群落は、それぞれの種の生育地として種子植物の項で取り扱った。

太田川河岸の代表的な自然植生として記録された川井のアラカシ - ナンテン群落は前回記録された場所で確認できなかった。法面工事などで失われた可能性がある。

選定群落

絶滅・絶滅

ムクノキ - エノキ群集

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧^く

シイモチ - シリブカガシ群集

イヌブナ群落

ハマサジ群集

フクド群集

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧^く

イノデ - タブノキ群集

カナメモチ - コジイ群集

ナナメノキ - アラカシ群集

ツクバネガシ - シラカシ群集

シキミ - モミ群集

アブラチャン - ホソバタブ群集

マアザミ - ヌマガヤ群集

イトイヌノハナヒゲ群集

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

シノブ - アカマツ群集

クロソヨゴ - ツガ群集

群 落

絶滅・絶滅

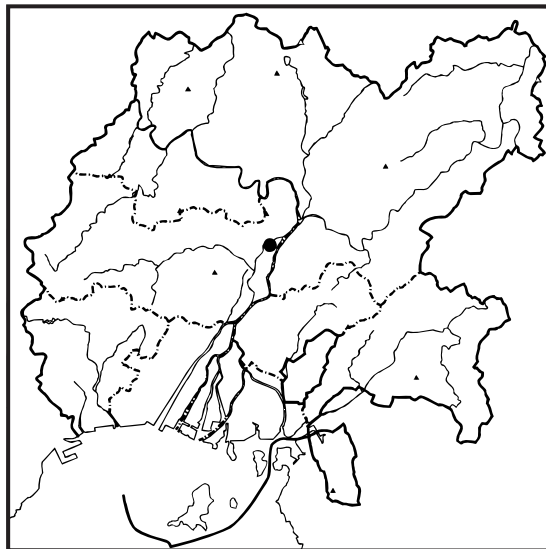
10～20年間確認されていない

■ ムクノキ - エノキ群集

Aphanantho-Celtidetum japonicae

高木層にエノキ，ムクノキが優占する落葉広葉樹林。河川沿いの沖積低地に成立。

唯一古川に知られていた林分が河川整備により消失し，現在は単木状のエノキなどが残るのみである。



群 落

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

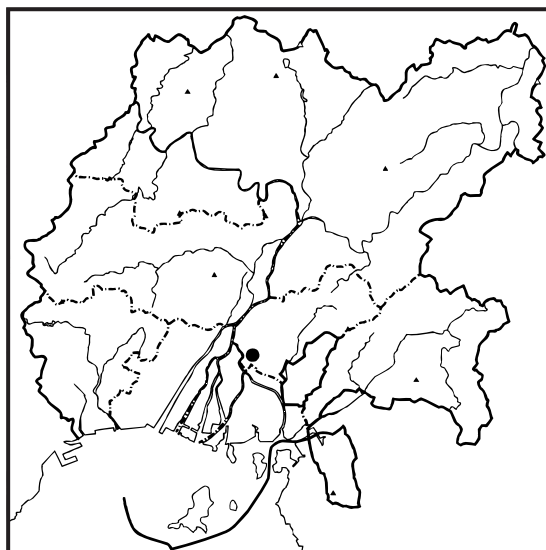
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ シイモチ - シリブカガシ群集

Ilici buergeri-Pasanietum glabrae

シリブカガシやシイモチを混生する常緑広葉樹林。高木層にシリブカガシあるいはコジイが優占する。亜高木層，低木層にはクロキ，シイモチ，シリブカガシなどの常緑広葉樹が生育する。丘陵地や山地斜面に成立。

東区二葉山でのみ植生資料が得られている。面積は1ha程度。ここでは南西部の林分が伐採され，土地造成が行われた。



群 落

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

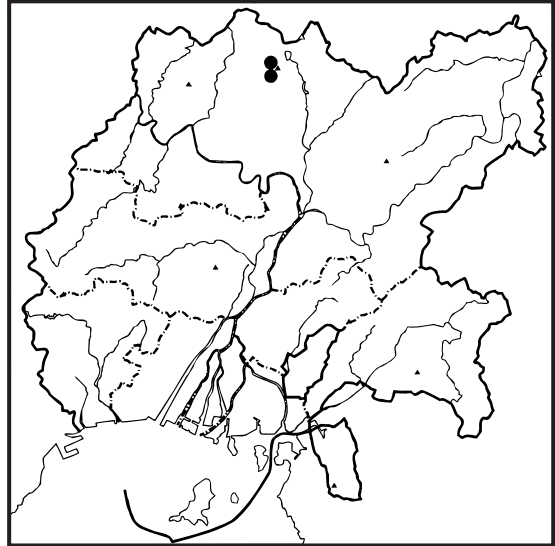
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ イヌブナ群落

Fagus japonica community

高木層にイヌブナの優占する落葉広葉樹林。山地帯の湿潤で土壌の発達した山腹斜面に成立。「日本植生誌」によれば、中国地方のイヌブナ林はチャボガヤ - イヌブナ群集にまとめられるとされているが、市域のイヌブナ林は種組成が異なり再検討の余地があるためイヌブナ群落としてあげた。

安佐北区堂床山^{どうとこ}の標高740m、760mの地点で植生資料が得られている。林分の伐採により面積が減少した。



群 落

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

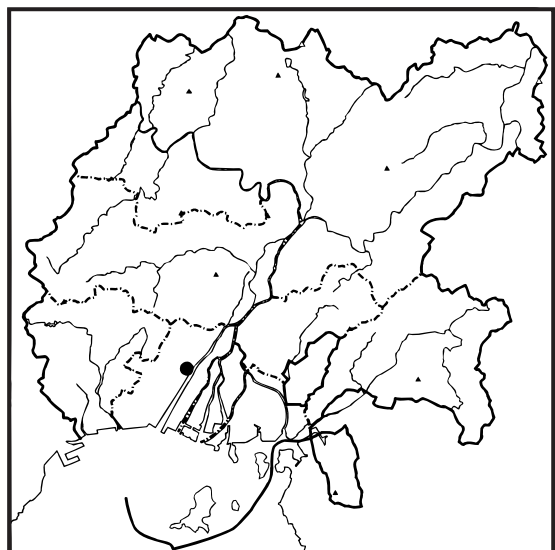
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ ハマサジ群集

Limonietum tetragoni

ハマサジが優占し、場所によりハママツナ、フクドを含む塩生植物群落。波浪の影響の少ない内湾や河口の塩湿地に成立。

太田川放水路己斐橋付近で植生資料が得られているが、河川整備で面積が大きく減少した。代償処置として河川中央側に移植が試みられたが事後調査は行われておらず、群落の状況は不明である。



群落

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

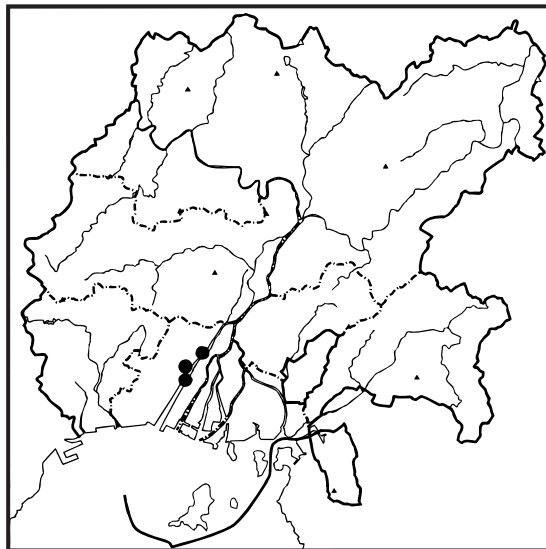
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ フクド群集

Artemisietum fukudo

フクドが優占する塩生植物群落。波浪の影響の少ない内湾や河口の塩湿地に成立。

太田川放水路己斐橋付近で植生資料が得られているが、河川整備で面積が大きく減少した。代償処置として河川中央側に移植が試みられたが事後調査は行われておらず、群落の状況は不明である。



群落

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

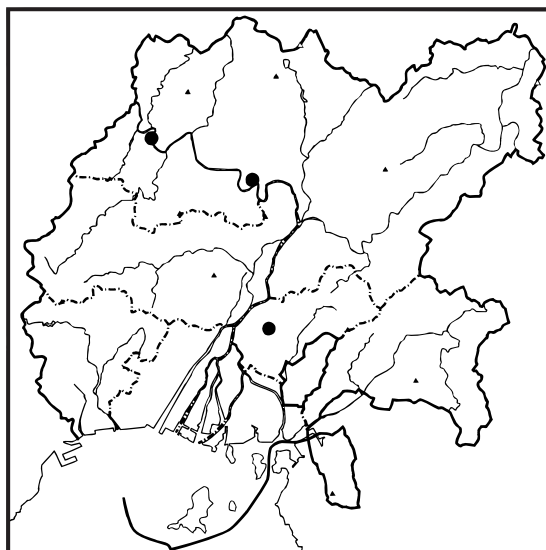
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ イノデ - タブノキ群集

Polysticho-Perseetum thungergii

高木層にタブノキの優占する常緑広葉樹林。高木層にタブノキが優占し、亜高木層、低木層にはヤブツバキ、ヤブニッケイなどの常緑広葉樹が生育する。沿岸部の丘陵斜面や平地に成立。

南区比治山、安佐北区可部で植生資料が得られているが、現状は不明。筒瀬八幡神社の社叢の群集同定については再検討の余地がある。



群落

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

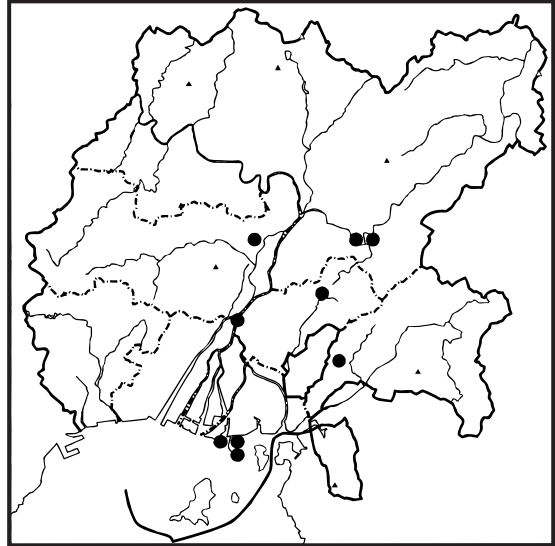
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ カナメモチ - コジイ群集

Photinio-Castanopsietum cuspidatae

高木層にコジイの優占する常緑広葉樹林。
沿岸部の丘陵地で乾燥した立地に成立。

南区元宇品，東区牛田新町，馬木八幡神社，安芸区中須賀神社，安佐南区宇那木神社，安佐北区友光神社，庄原神社で植生資料が得られている。馬木八幡神社では，1991年の台風19号の影響により，高木層の樹木の多くが枯死した。県天然記念物（馬木八幡神社の社叢）。



群落

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

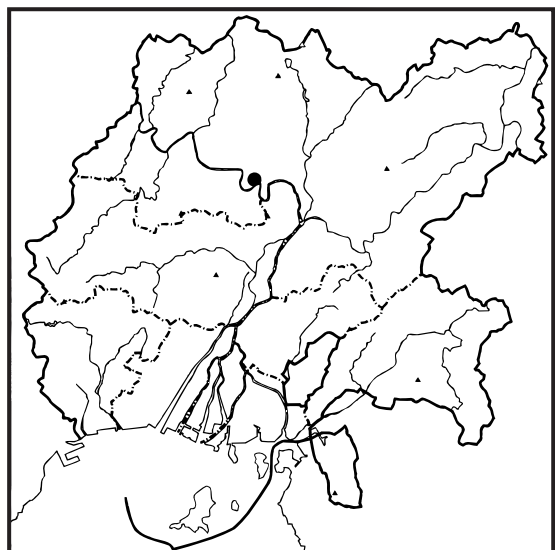
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ ナナメノキ - アラカシ群集

Ilici chinensis-Quercetum glaucae

高木層にアラカシが優占する常緑広葉樹林。亜高木層，低木層にはナナメノキなどの常緑広葉樹が生育する。丘陵地や山地斜面に成立。

東区牛田山，安佐北区筒瀬八幡神社で植生資料が得られているが，現状は不明。筒瀬八幡神社の社叢の群集同定については再検討の余地がある。



群 落

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

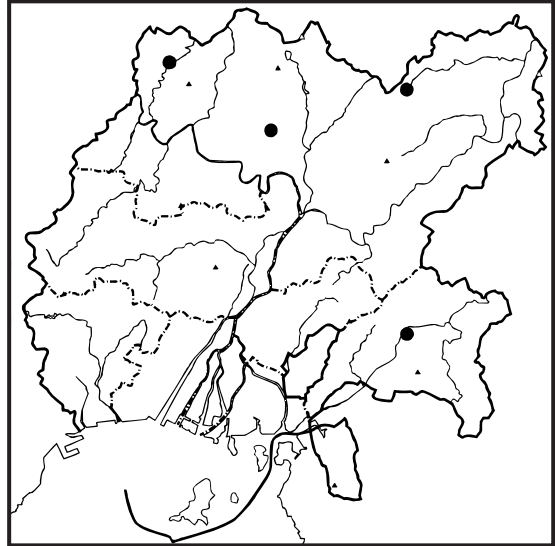
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ ツクバネガシ - シラカシ群集

Quercetum sessilifolio-myrsinæfoliae

高木層にシラカシやツクバネガシ，ウラジロガシ，アラカシ，アカガシが優占する常緑広葉樹林。内陸部の丘陵地や山地斜面に成立。

安芸区^{きりはた}切幡神社，安佐北区^{うが}宇賀峡，養山^{ようさん}八幡神社，平藪神社，福王寺山，白木町，安佐町で植生資料が得られている。市天然記念物（養山八幡神社の社叢^{はちまん ひらやぶ}，切幡神社のシイ林^{しょうはんはちまん しやそう きりはた}）。



群 落

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

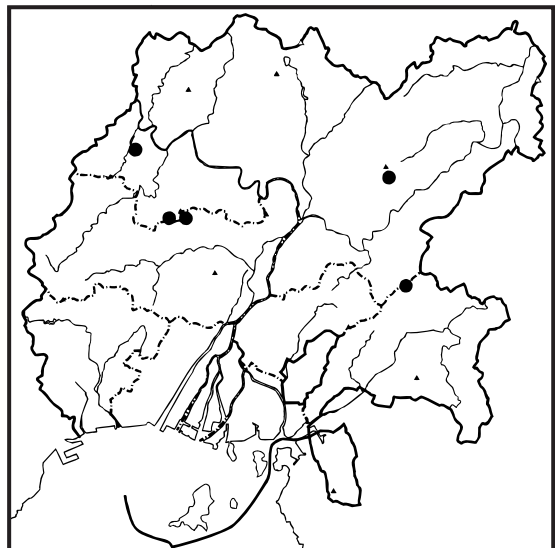
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ シキミーモミ群集

Illicio-Abietetum firmae

高木層にモミ，ツガ，ウラジロガシ，アカガシ，ツクバネガシが優占するか混生する常緑広葉樹針葉樹混交林。内陸部の丘陵地や山地斜面に成立。

安芸区・安佐北区長者山，安佐北区荒谷山，白木山，冠山で植生資料が得られている。荒谷山山頂付近の林分は，調査時にすぐそばで伐採作業中であつた。今後伐採されるおそれがある。その他の林分については不明。



群落

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ アブラチャン - ホソバタブ群集

Parabenzoino-Perseetum japonicae

高木層にケヤキが優占する落葉広葉樹林。
 渓谷沿いの崖^{がいすい}錐斜面に成立。

安佐北区宇^う賀^が峡で植生資料が得られているが、詳細な位置及び現状は不明。



群落

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

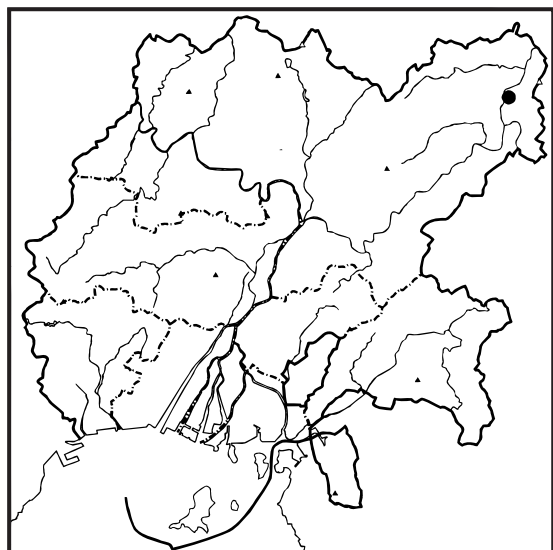
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ マアザミ - ヌマガヤ群集

Cirsio-Moliniopsietum japonicae

マアザミ、ヌマガヤなどが混生する湿生草本群落。地表水が少ないかほとんどない湿地に成立。

安佐北区白木町で植生資料が得られている。本調査で初めて確認されたが、二次的な要素も混ざっており今後検討の余地がある。



群 落

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

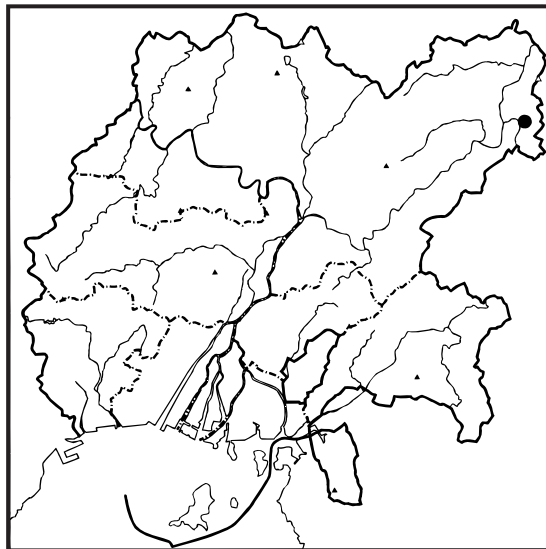
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ イトイヌノハナヒゲ群集

Rhynchosporetum faberi

イトイヌノハナヒゲ，ミミカキグサ，モウセンゴケなどが混生する湿生草本植物群落。イトイヌノハナヒゲなどのイネ科，カヤツリグサ科植物が混生し，ミミカキグサ，モウセンゴケなども出現する。地表水が少ないかほとんどない湿地に成立。

安佐北区白木町で植生資料が得られている。本調査で初めて確認された。



群 落

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

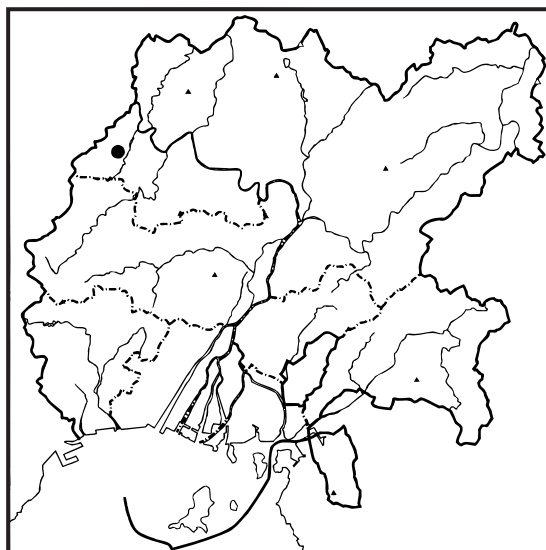
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

■ シノブ - アカマツ群集

Davallio-Pinetum densiflorae

高木層にアカマツが優占し，時にヒノキ，ツガ，コウヤマキが混生する常緑針葉樹林。亜高木層，低木層にはツツジ科植物などが生育する。山腹急傾斜地の乾燥した露岩地に成立。

安佐北区^{うが}宇賀峡で植生資料が得られているが，現状は不明。本群集が見られる斜面の一部で伐採が行われており，面積の減少などの影響が出ることが懸念される。



群落

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

■ クロソヨゴ - ツガ群集

Ilici-Tsugetum sieboldii

高木層にツガ、ヒノキ、コウヤマキ、ヒメコマツが優占するか混生する常緑針葉樹林。山地の溪谷沿いの岩角地、尾根部に成立。

むこうやま
安佐南区向山、安佐北区備前坊山、鎌倉寺山で植生資料が得られているが、現状は不明。

